

「楯築遺跡の再評価と牛窓の応神天皇」

第3回定説への叛乱in岡山

令和4年9月3日

楯築ルネッサンス副代表

全国邪馬台国連絡協議会副会長・中四国支部長

NPO法人公共の交通ラクダ会長

岡將男

発掘報告書 「楯築墳丘墓」

- 岡山大学レポジトリにて発表2022-1201
- 岡山大学文明動態学研究所、岡山大学考古学研究室から、
- 1976年から1989年の7次発掘調査
- 1992年『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会
近藤義郎編著
- 2015年宇垣匡雅氏から発掘調査の再整理とその報告書発行打診、宇垣匡雅氏の長年の成果
- 前原や西谷などその後の発掘調査報告を受けての再評価





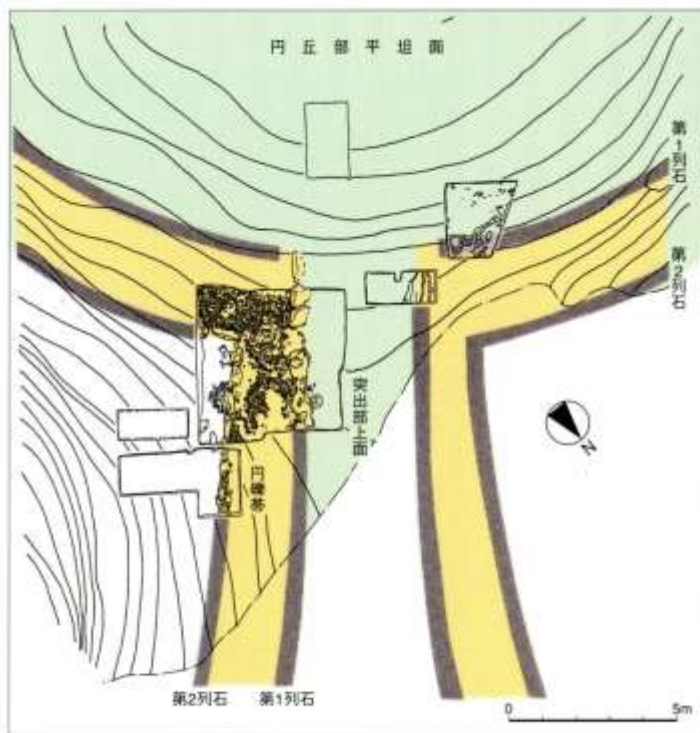


図 19 ● 北東突出部のトレンチおよび遺構配置図
東側のくびれ部の第1、第2列石および円埴帯の状況がよくわかる。

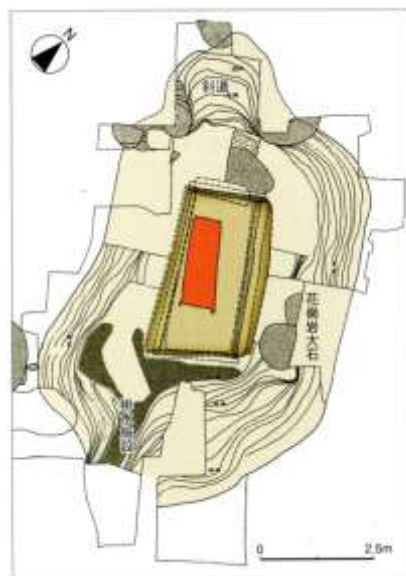
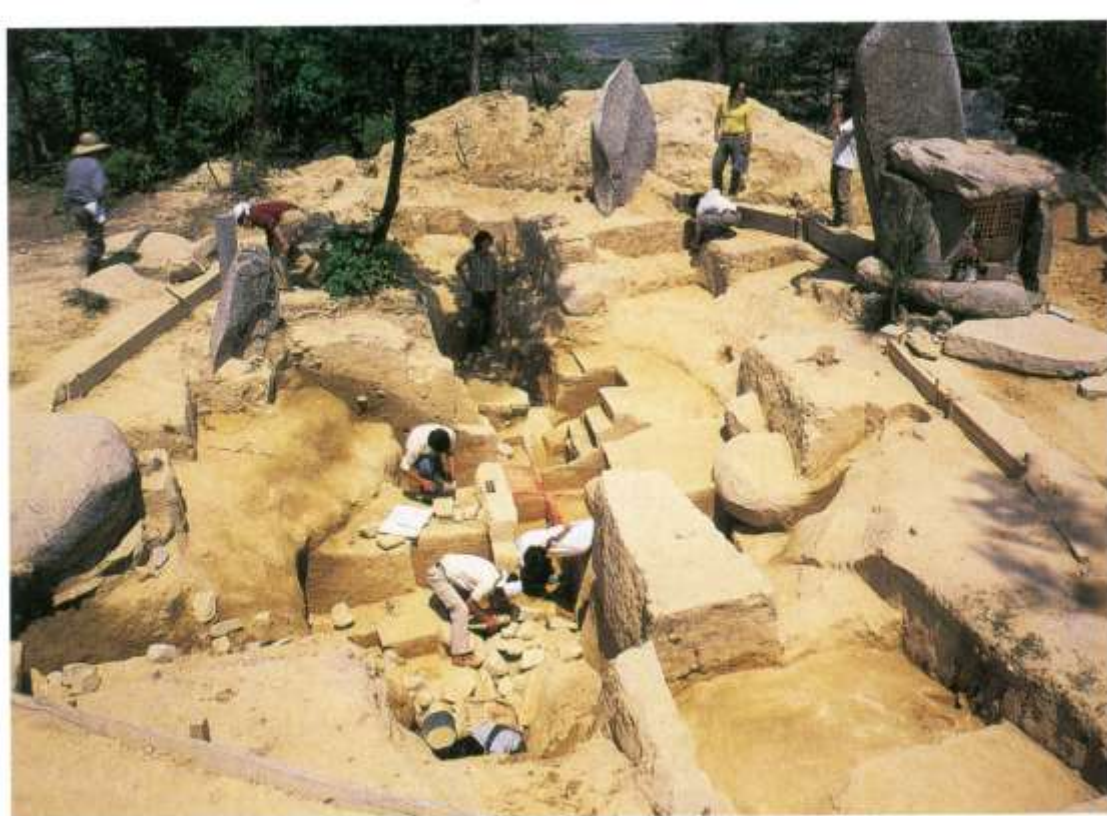


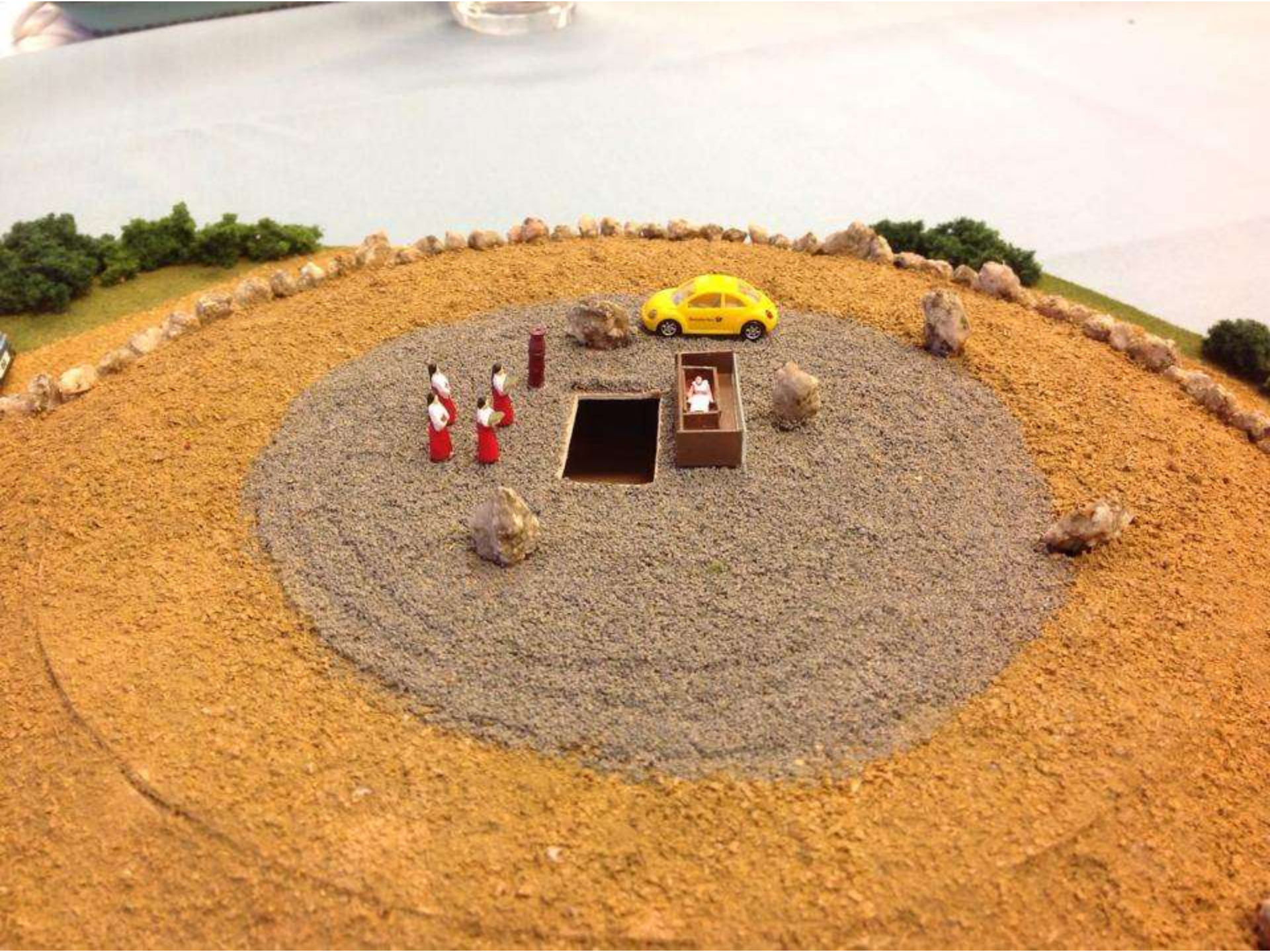
図 28 ● 中心主体部の遺構の検出状況
墓壁の範囲には、自然の露岩がそのまま残されている。



図 33 ● 検出された中心主体部の木棺
底面に敷かれた土が鮮やかに見える。写真手前が鉄製の位置。銅製の玉環が検出されている。また、その右側には鉄剣も見える。



図 34 ● 中心主体部・木棺底部で検出された副葬品
鮮やかな朱のなかに、碧玉製の管玉が浮かび上がって見える(玉類)。ここが頭部。左端には、鉄剣が検出されている。



箸墓古墳後円部頂の想像図(イメージ)

宮内庁の公開資料を元に作製

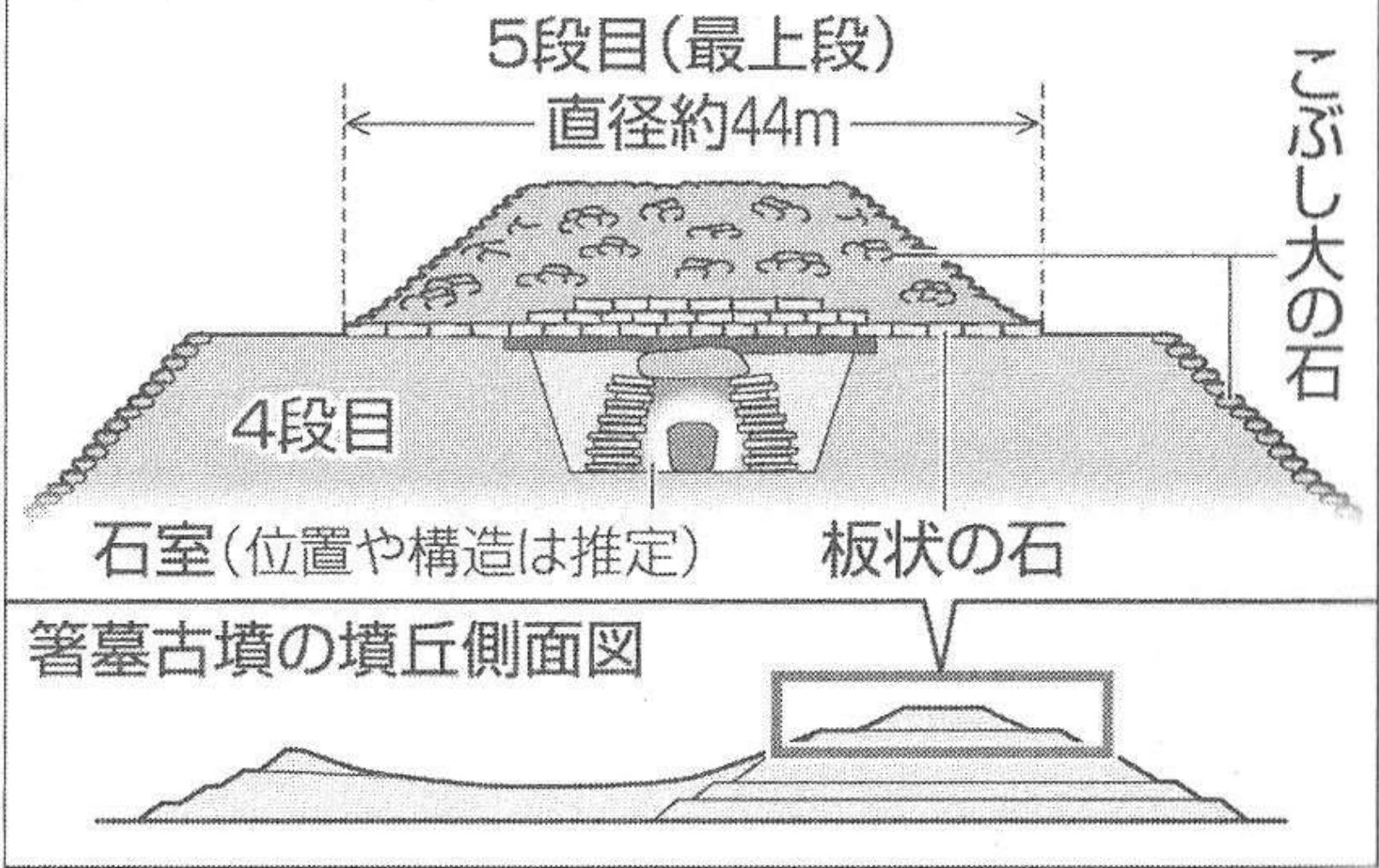
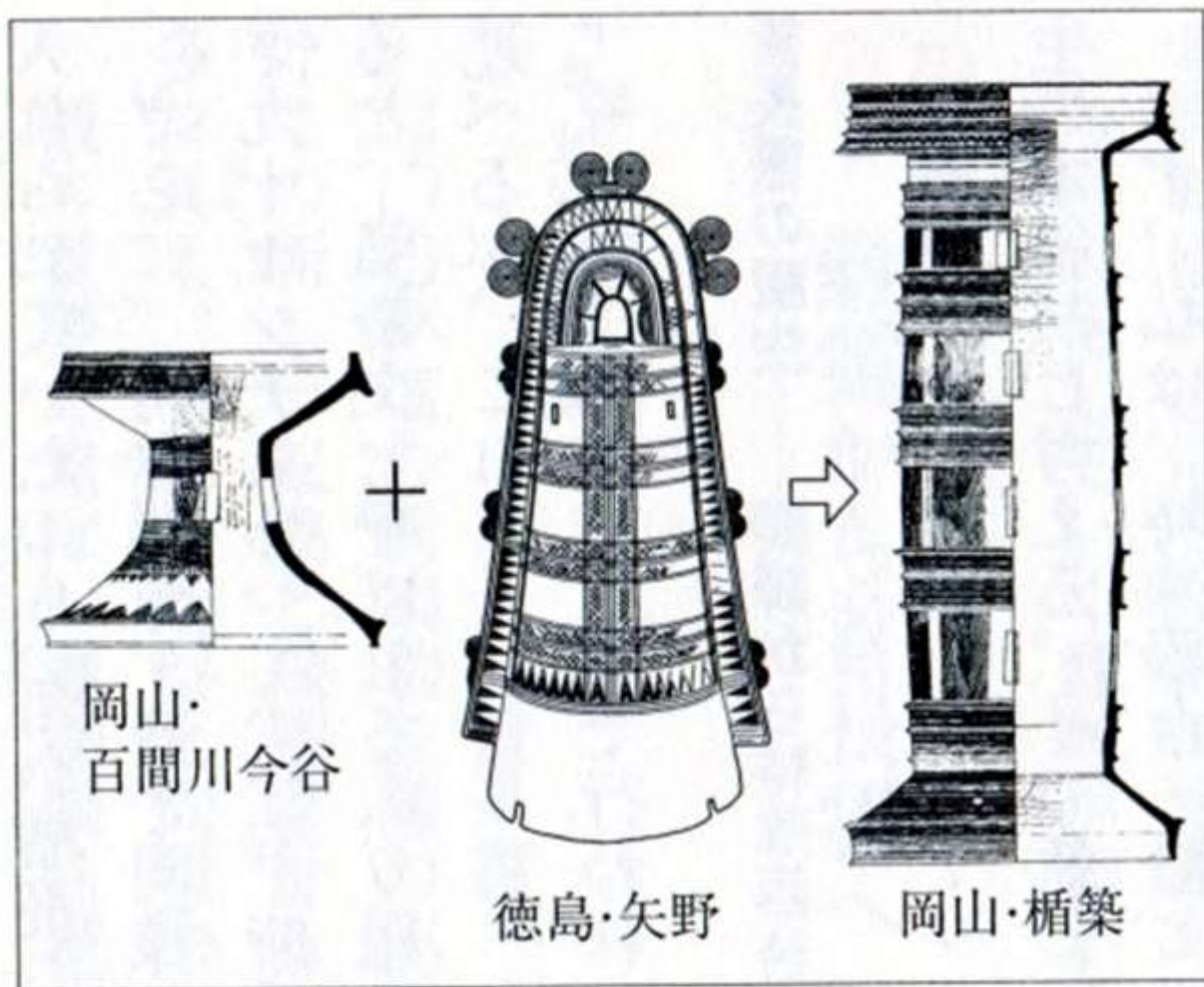
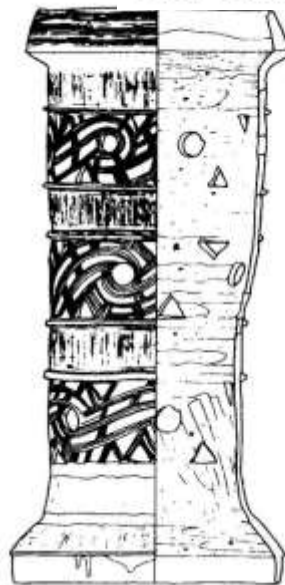
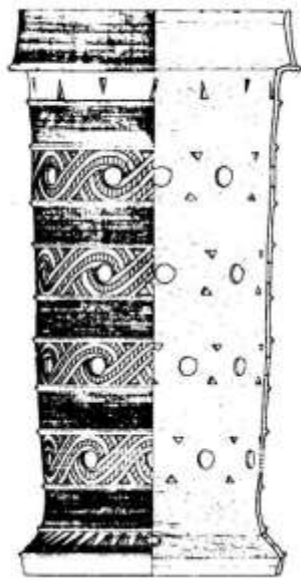
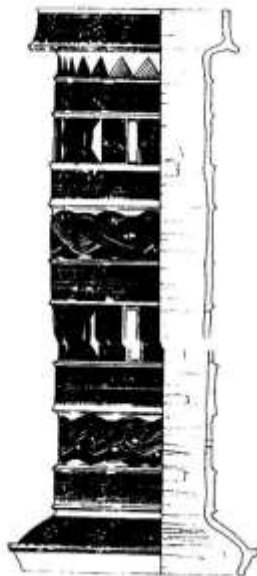
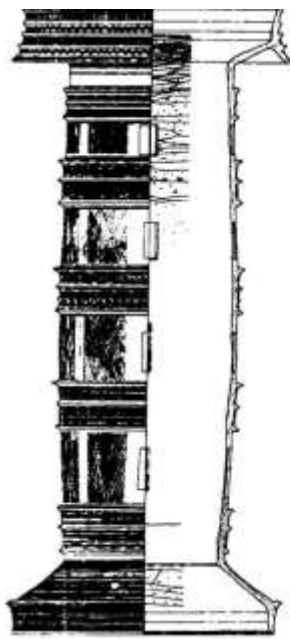
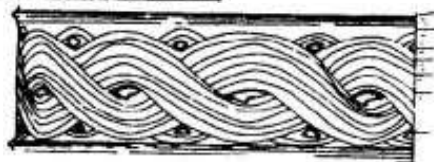


図 14 箸墓古墳後円部頂の想像図(朝日新聞 2012年9月9日)



銅鐸から特殊器台へ 後期に巨大化しつつけた突線鈕式銅鐸は2世紀末、キビでは楯築墳丘墓の誕生によって消滅し、新たに特殊器台として生まれかわり、王の霊を守り増大するための呪器としてその墓に立てられた

弧帯文の流れ



西谷三号墓

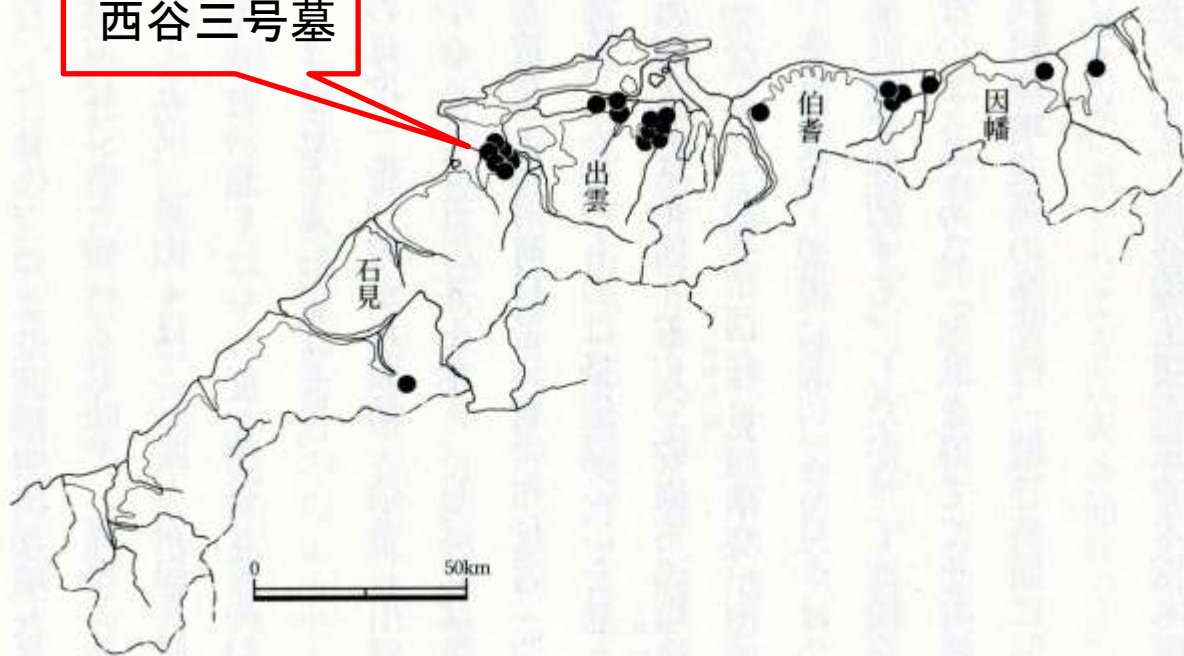


図60 山陰における四隅突出型墳丘墓のおよその分布（注7）



図 60 ●島根県出雲市西谷3号墳の墳丘模型
山陰地方で特徴的にみられる四隅突出型弥生墳丘墓。



宮山型特殊器台

図 61 ●総社市宮山弥生墳丘墓から出土した特殊器台
棺として転用されていたもの。

出雲・西谷三号墓





出雲・西谷三号墓、博物館復元模型

楯築弥生墳丘墓の画期性

- 前方後円墳の祖型
- 特殊器台の発明34個→埴輪
- 弧帯文の創設
- 古墳時代の幕開けとしての評価

プラス新たな知見として

- 大柱の導入、前原・西谷・今井との比較
- 家形土器の創設、10個
- 建物遺構の発見
- 楯築の語源、頂上立石と列石の再評価
- 桃核祭祀の可能性、上東・纏向

木棺木槨主体部両脇の2本の柱 別に1本の大柱、建物



木柱2, 木柱3

木柱2



特殊器台溜まり



木柱3

弧帯文石

円礫堆

墓壇

大柱遺構



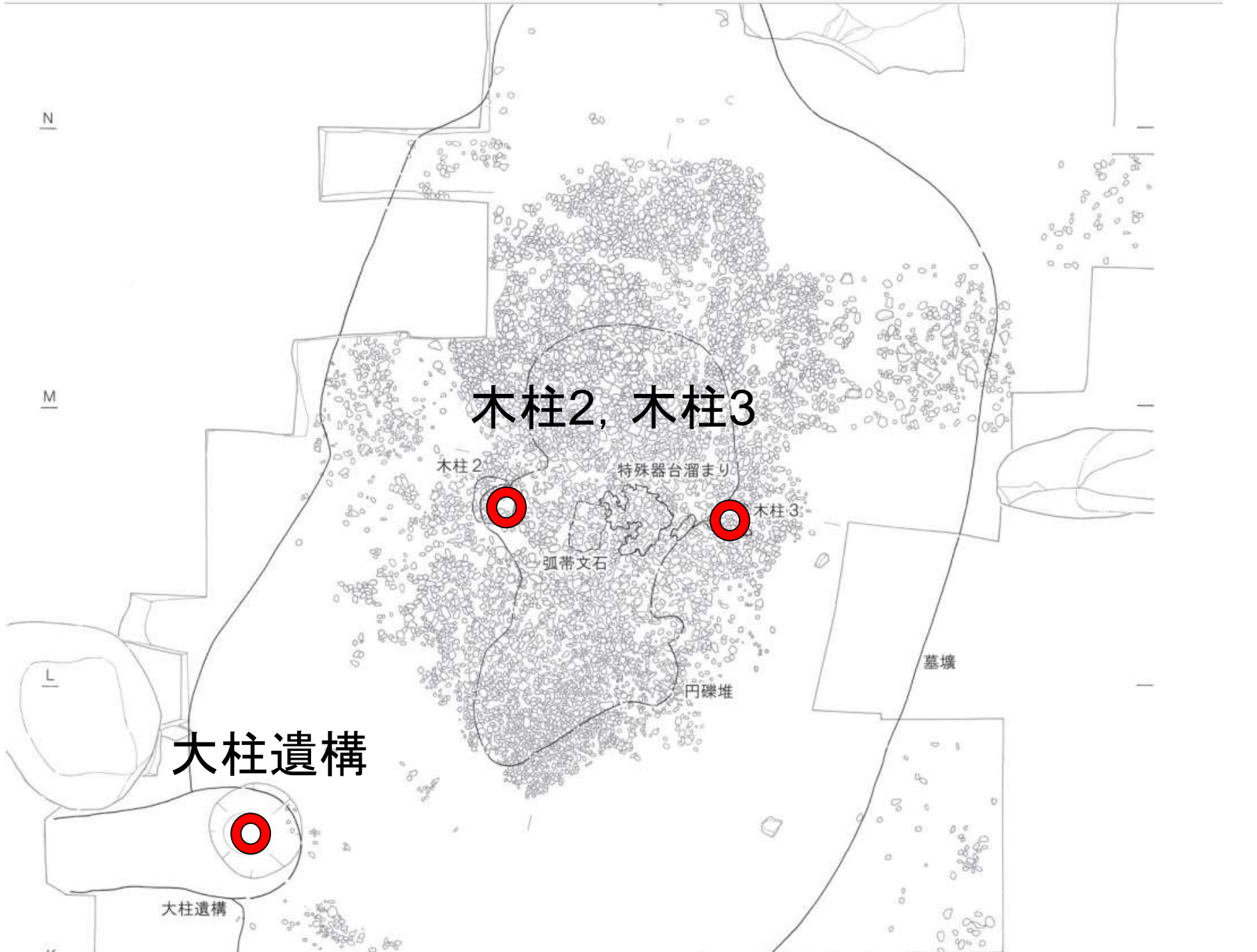
大柱遺構

N

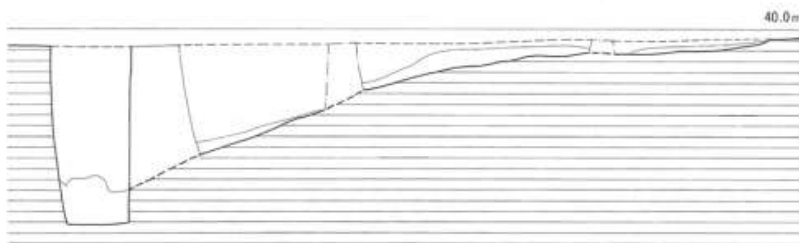
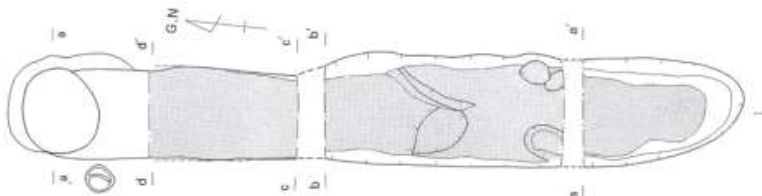
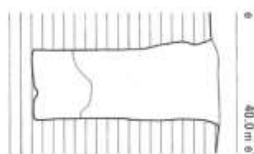
M

L

K



福岡・伊都国・平原遺跡

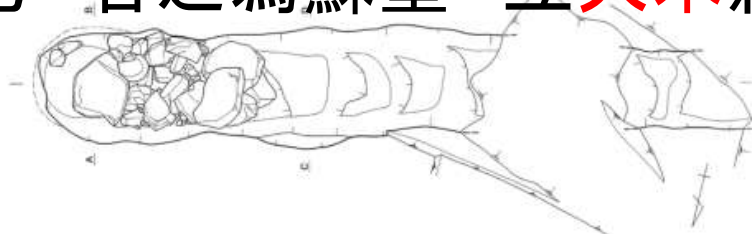


0 2m

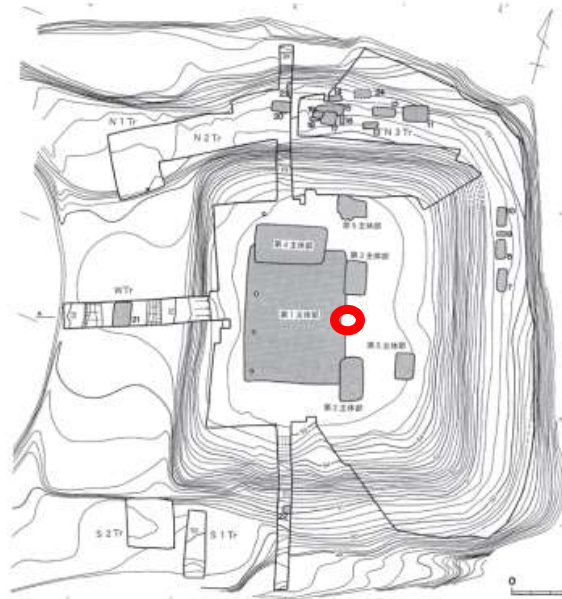
魏志韓伝

又諸國各有別邑 名之為蘇塗 立大木縣鈴鼓事鬼神

1 平原遺跡・1号墓大柱

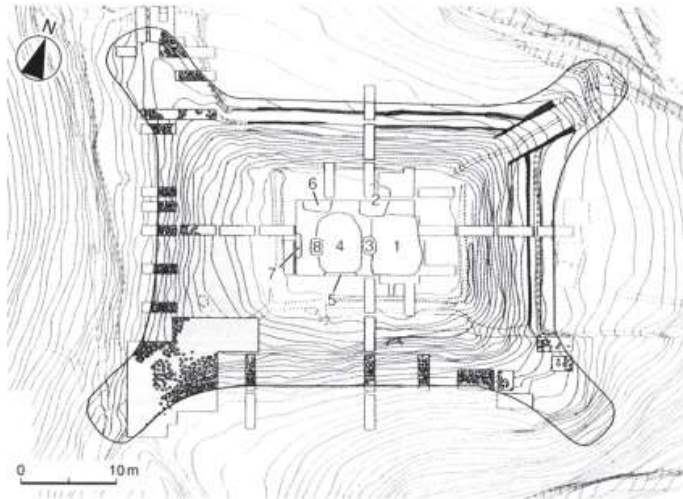


丹後・赤坂今井墳丘墓

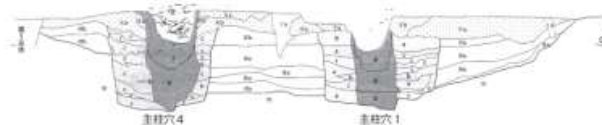


5 京都府赤坂今井墳丘墓

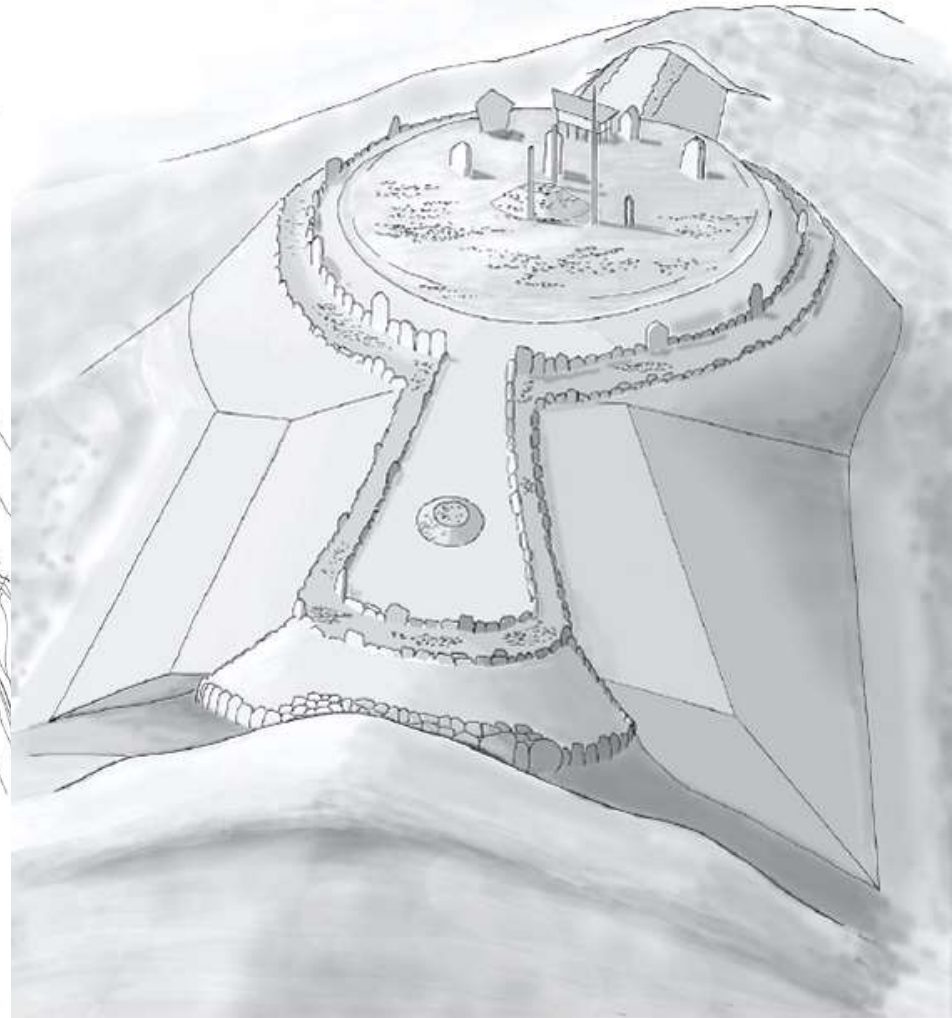
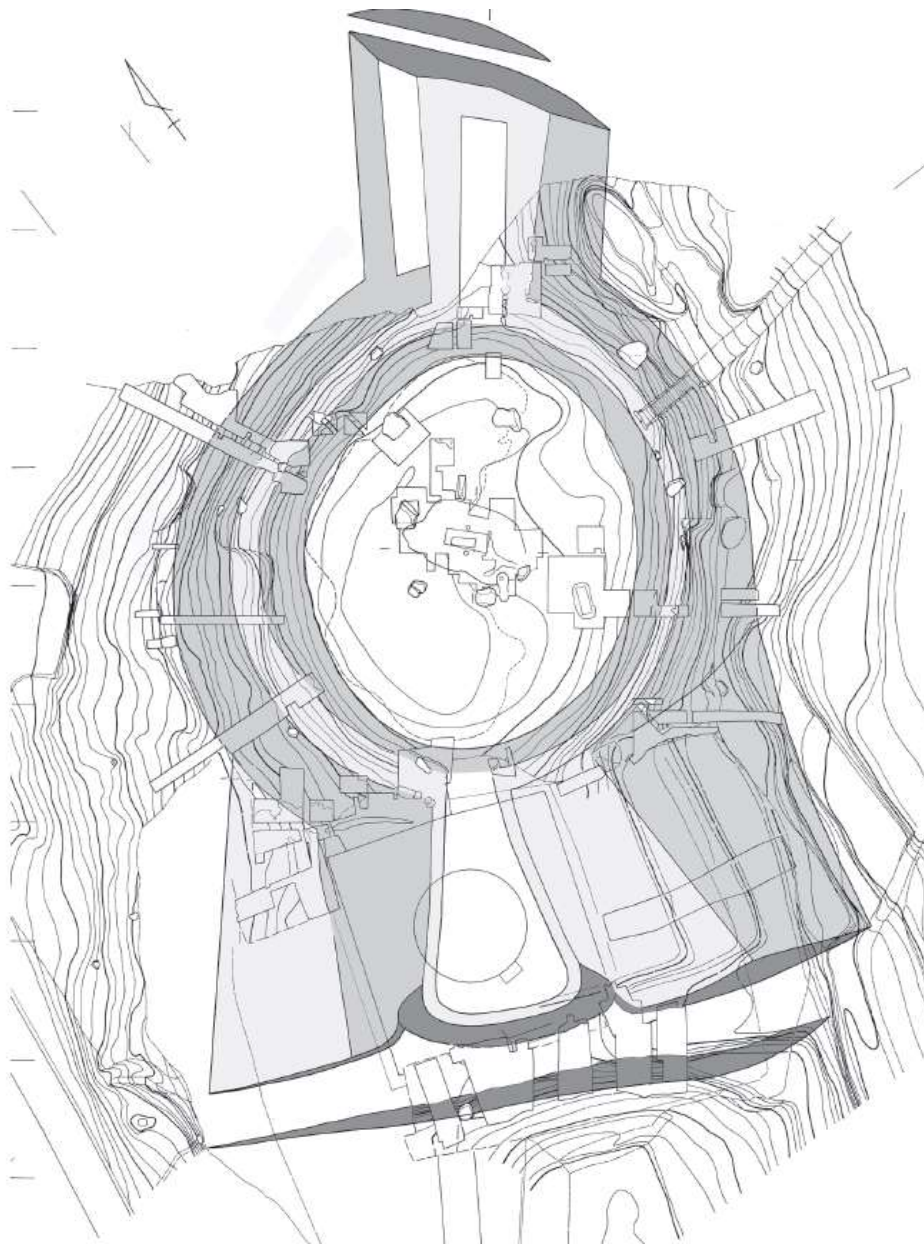
出雲・西谷3号墓



諏訪大社の御柱も似ている



6 島根県西谷3号墓・柱穴



石楯というべき列石、その間に特殊器台34基
双方中円墳の祖型か



纏向・崇神天皇陵の東・櫛山古墳

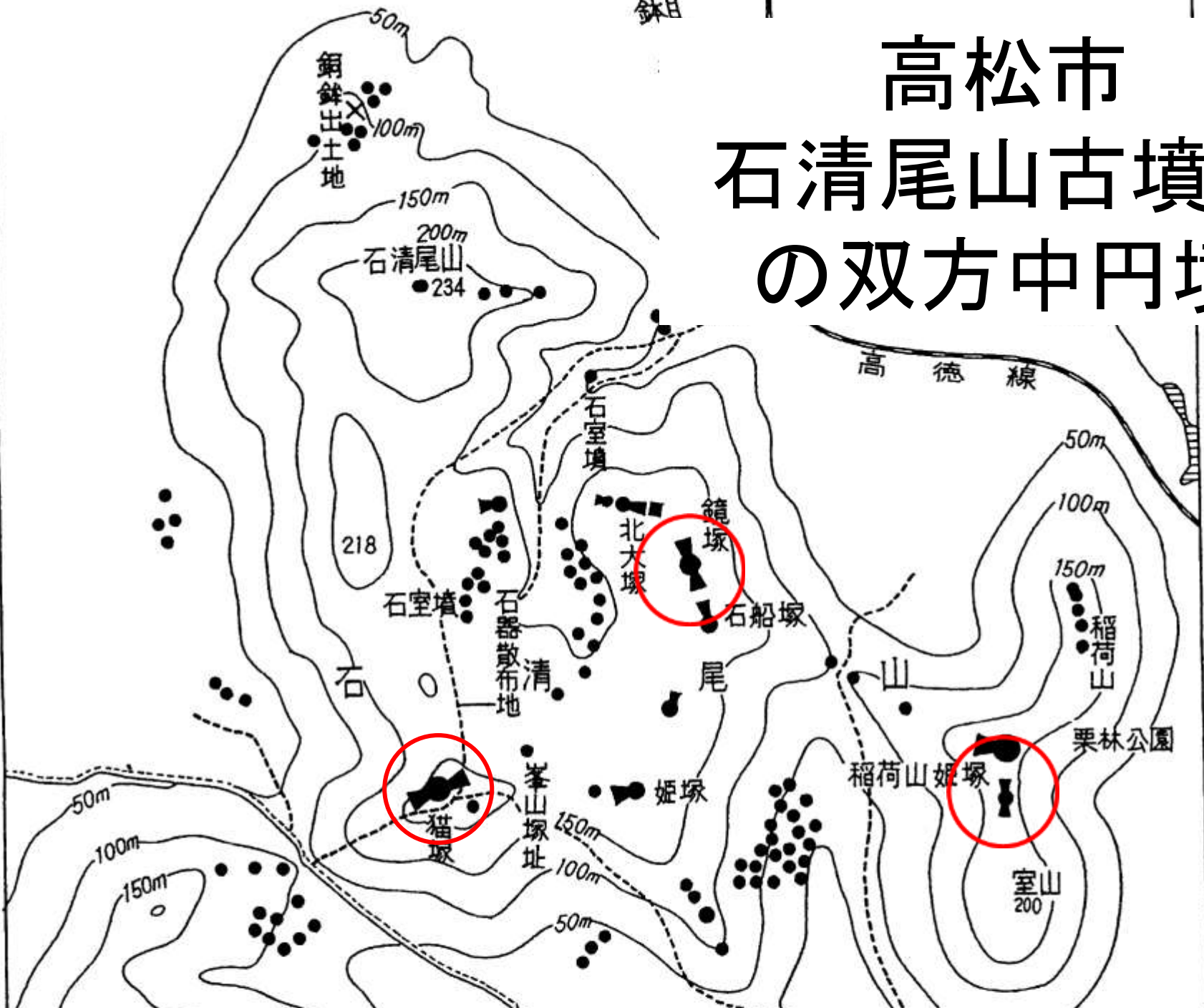


行燈山古墳 (崇神天皇陵) とその周辺

天理市教育委員会

柳本古墳群

高松市 石清尾山古墳群 の双方中円墳



北大塚、背後は屋島



楯築墳丘墓と湯迫車塚古墳模型



楯築墳丘墓の中心の配置



表4 出土土器の構成

	埋葬		墳頂			円丘部斜面							突出部		計	立坂墳丘墓				
	円礫堆	第2主体	立石2周辺	立石1北側	立石3周辺	西くびれ部	南くびれ部	北斜面	(主要個体)	北西斜面	(主要個体)	西斜面	南東斜面	(主要個体)			東斜面	北東突出部	南西突出部	その他
特殊壺			1	2		3	1	1	(1)				3		4	7	1	23	7	
特殊器台	3		2	1		4	2	4	(3)	2	(1)	2	5	(2)	3	6		34	9	
小形特殊器台			1			1									3	14	2	21	2	
長頸壺						2		6	(5)			1	4	(1)	2	9	5	29		
壺	4				1											1		6	9	
器台	3					2		1	(1)				2		1			9	3	
家形土器	2		2	1						1			2	(2)			2	10		
鉢													1			1		2	2	
甕	1	3																4	12	
直口壺					1													1	6	
小形壺			2	3	4													9		
小形器台			2	3	5	3												13	9	
装飾高杯	11	1	1	2	1	3							1					20	4	
中・大形高杯	4		1	1														6		
高杯B	4		3	3	2			1					1					14		
高杯A・脚付直口壺	93	17	2	6	1	2									5		1	127	20	
計	125	21	17	22	15	20		13		3		3	19		6	27	28	6	328	83

家形土器・女
倉敷考古館



夫男岩遺跡家形土器の復元模型
極めて理に適った構造、天窓と雨よけ



家形土器は墳頂部に5個、斜面3個、その他2個配置



鳥取県東伯郡湯梨浜町藤津・弥生後期

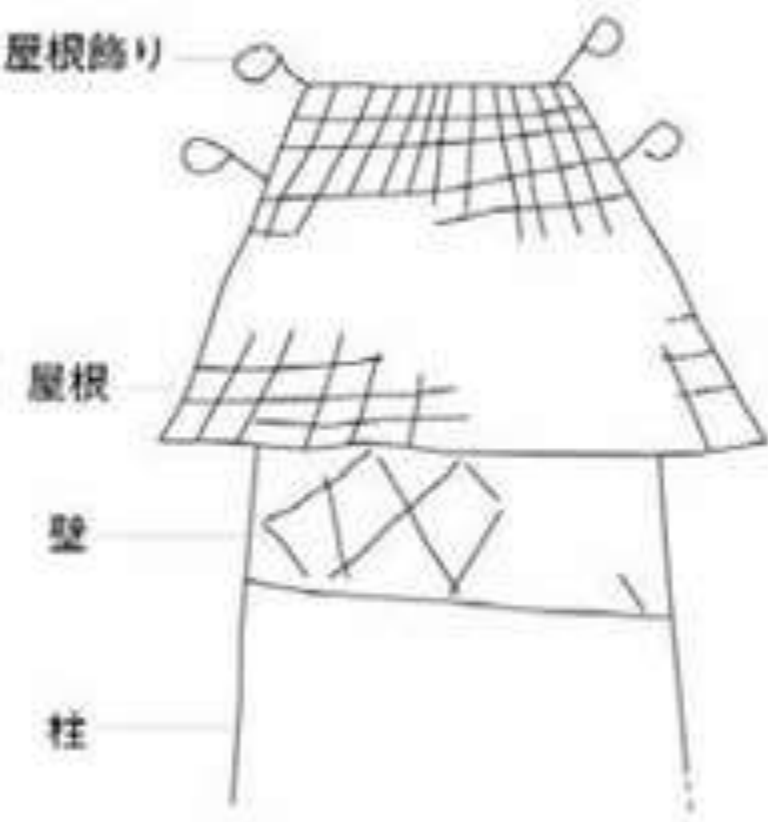


善通寺・香色山出土家形埴輪



善通寺・旧練兵場遺跡

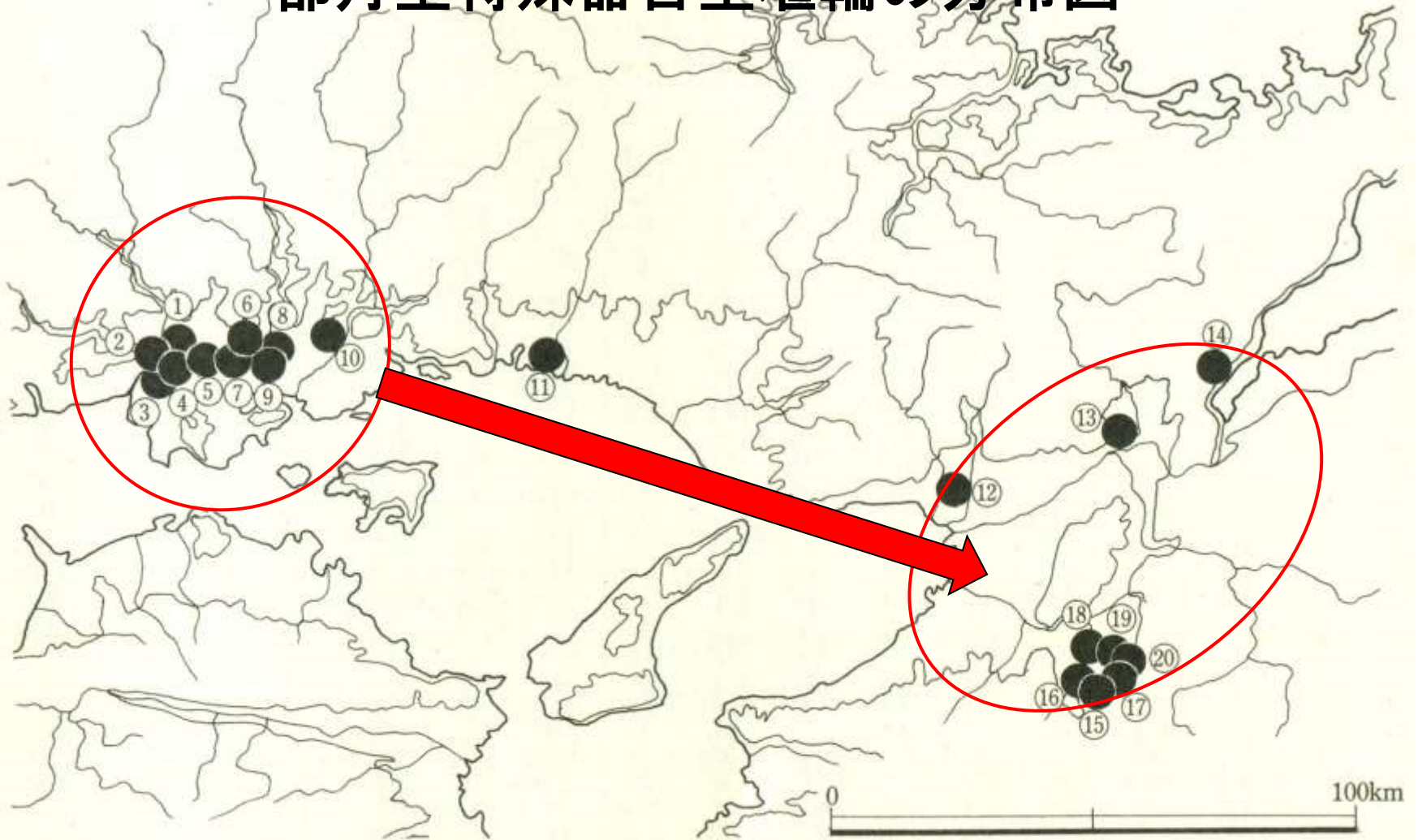
旧練兵場遺跡出土建物を描いた絵画土器



立坂型特殊器台分布图



都月型特殊器台型埴輪の分布図



- | | | | | |
|----------|---------|----------|----------|----------|
| ①矢部B42号墳 | ②矢部大塚古墳 | ③矢部伊能軒遺跡 | ④矢部堀越遺跡 | ⑤中山茶臼山古墳 |
| ⑥都月坂1号墳 | ⑦七つ塚1号墳 | ⑧網浜茶臼山古墳 | ⑨操山109号墳 | ⑩浦間茶臼山古墳 |
| ⑪権現山51号墳 | ⑫西川遺跡 | ⑬元稻荷古墳 | ⑭壺笠山古墳 | ⑮箸中山古墳 |
| ⑯纏向遺跡 | ⑰中山大塚古墳 | ⑱馬口山古墳 | ⑳西殿塚古墳 | ㉑東殿塚古墳 |

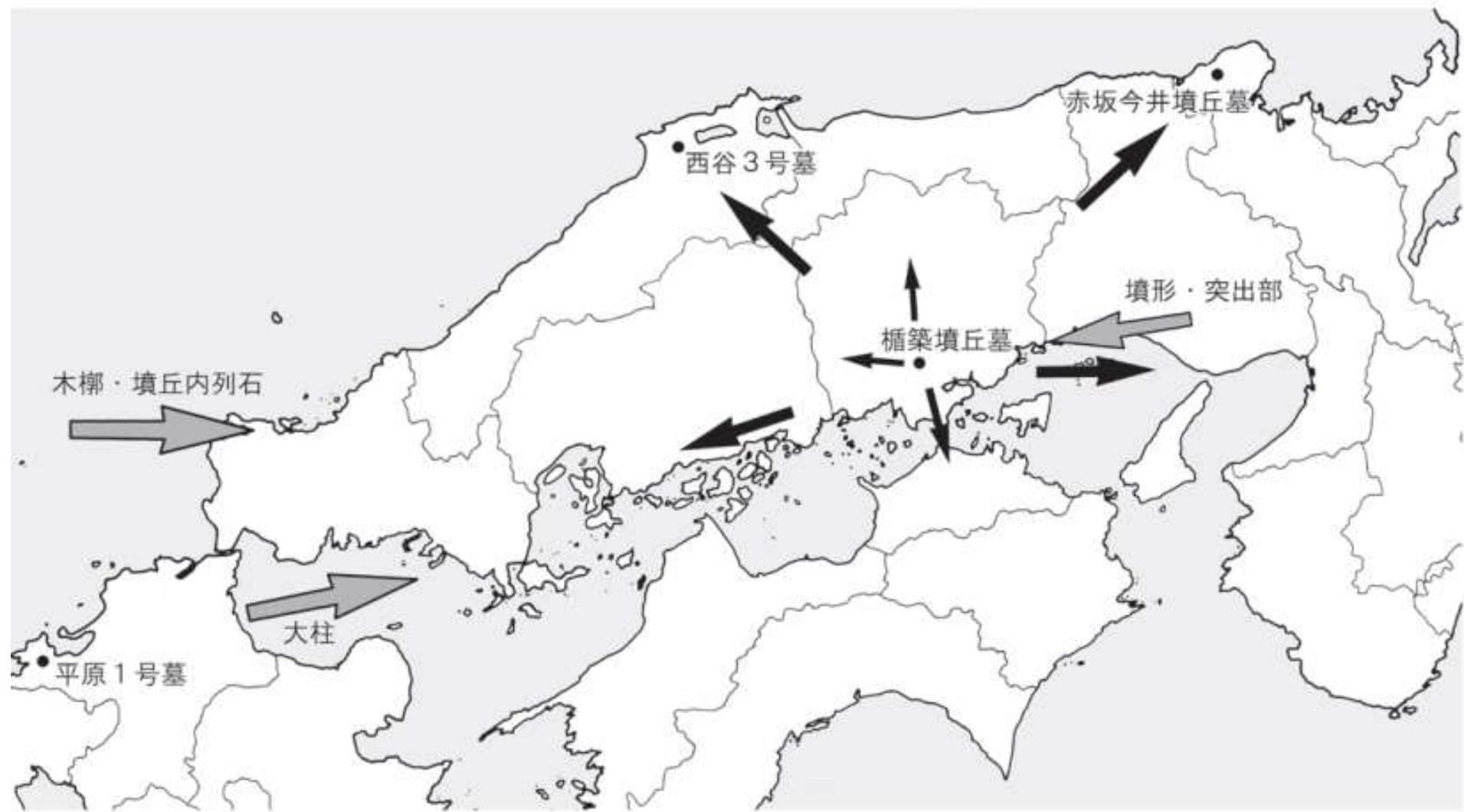
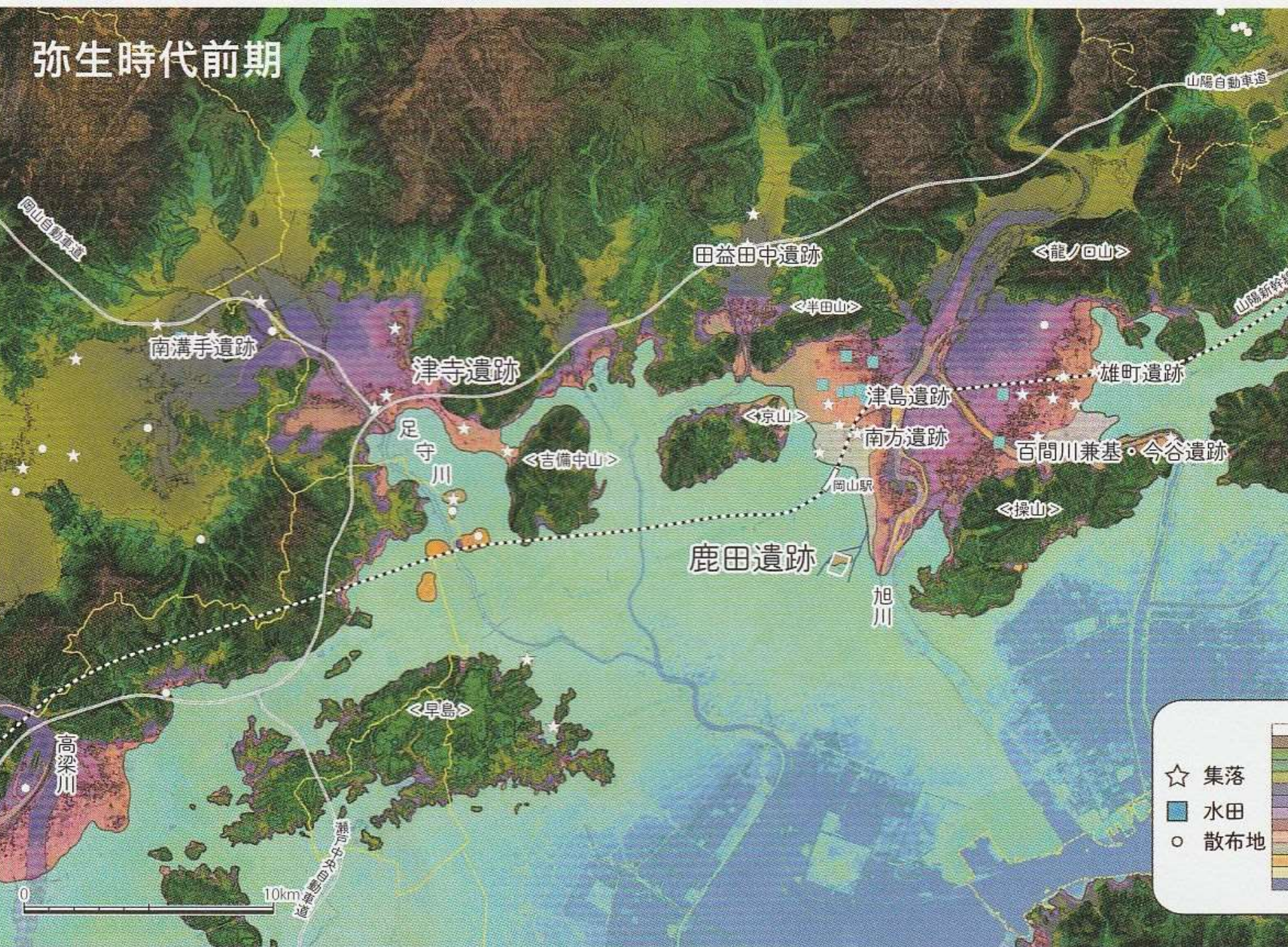


図185 諸要素の導入と祭祀の伝播

弥生時代前期



山陽自動車道

阿保川

山陽新幹線

田益田中遺跡

<龍ノ回山>

南溝手遺跡

津寺遺跡

<半田山>

雄町遺跡

足守川

津島遺跡

南方遺跡

百間川兼基・今谷遺跡

<信備中山>

<京山>

岡山駅

<操山>

鹿田遺跡

旭川

<早島>

高梁川

- ☆ 集落
- 水田
- 散布地

0 10km

瀬戸内海

RSKバラ園前の上東遺跡・波止場？





邪馬台国への道のり

Road to *Yamataikoku*

邪馬台国畿内説では、その一つ投馬国を、吉備
または出雲とする意見が有力です。また、近年では
邪馬台国は吉備にあり、後に畿内(大和)に移ったと
する吉備邪馬台国東遷説も提唱されています。



図 45 ● 円礫堆の底面近くから検出された弧帯文石



図 46 ● 円礫堆から検出された弧帯文石
バラバラに壊された破片を接合すると、
ほぼ完形に復元できた。



図 47 ● 御神体となっている弧帯文石の文様
断面が三角形の突起をもつ円孔を5字状にめぐるように
帯状の文様が刻まれている。

楯築 環状の2列の石列概念図

1 墳形と墳丘の諸要素

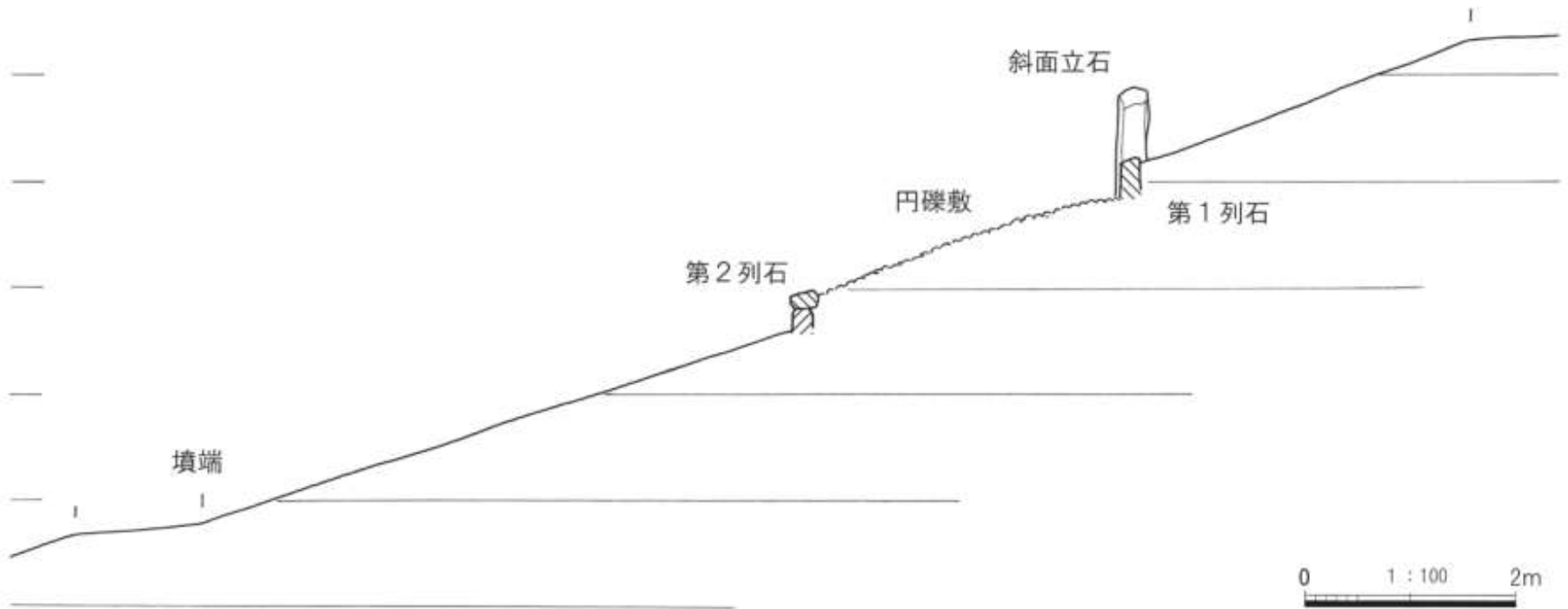


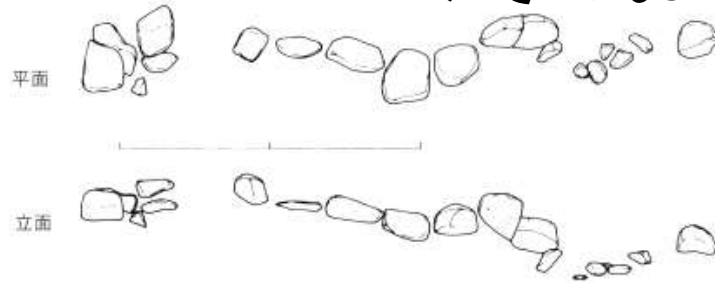
図161 斜面施設模式図 1 : 100



1 伊与部山墳墓群 石垣

伊与部山

みそのお16号



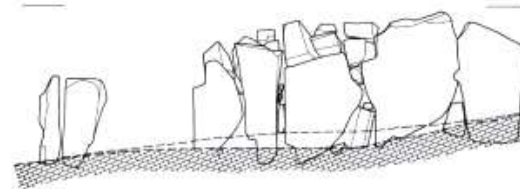
2 みそのお16号墓 列石

楯築



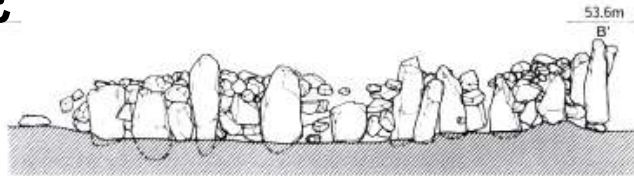
3 楯築墳丘墓第1列石

立坂



4 立坂墳丘墓 列石

前内池



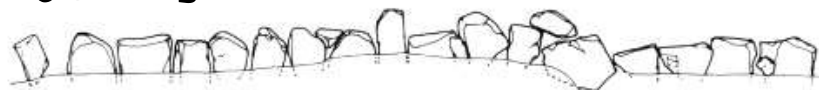
5 前内池遺跡 列石



6 みそのお39号墓 列石

みそのお4号

みそのお39号



7 みそのお4号墓 列石



図164 吉備南部弥生墳墓の列石 1 : 60

1・2 後期前半、3～6 後期後葉、7 後期末葉



善通寺・野田院古墳 石垣と土器の配置が似ている



1966年4月20日
 山陽新聞
 岡山理科大学教授
 吉岡金市
 日本考古学会発表

山手・吉備考古館の
 桃核

上伊福遺跡出土
 弥生時代の壺中
 40個

国内原種の可能性
 内4個は
 穴を空けた
 桃笛、雉笛か？

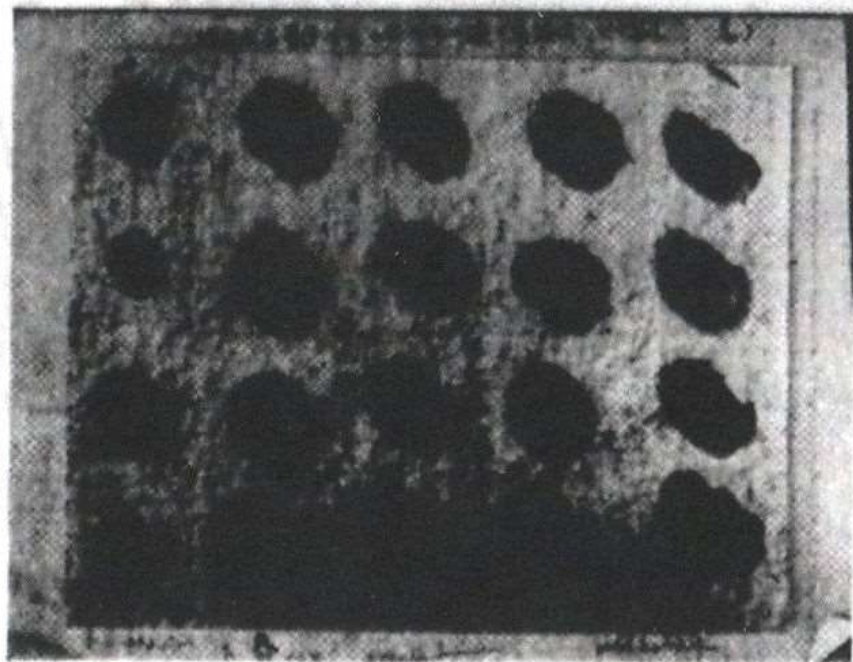
土器に在庫に注目
 桃太郎・雉・祭祀

モモ原産地で新説

岡山理大の
 吉岡農博
 中国と断定できぬ

倉敷市坊安、岡山理科大学教授
 吉岡金市農博のことは、十九日、モ
 モの原産地は中国、という通説を

くつがえし「日本が中国が断定で
 きない」との研究成果を発表、モ
 モが日本にはいつたのは仏教伝来



吉備考古館のモモの種。右端四個には穴があいている

のころ（西暦五五二年）という説
 説よりははるかに前から日本にも
 あったと二十九日から東京の国学
 院大学で開かれる日本考古学会総
 会で発表する。

吉岡博士はこのほど岡山市上伊
 福遺跡から発掘された吉備考古館
 （都窪郡山手村）に保存されてい
 るむよい時代（約二千三百年前）の

土器、ツボ、を調べたところ、中
 からモモの種四十個を発見、それ
 までの通説だった、日本移入は仏
 教伝来の時、に疑問をもって研究
 した結果、古来の中国品種と違っ
 のを確説、これとともに四年前か
 ら考古学関係者間で発掘がつづ
 いている広島県豊後郡の馬場遺跡
 がじょうもん時代（約七千年前）の
 もので、この中からもモモの種が
 十個発見されていること、さらに
 岡山県田原遺跡や児島市前山遺跡
 もむよい時代のものでわかり、そ
 の中からやはりモモの種がそれぞ
 れ発見されたことを知り、通説は
 摺りとの新説を発表することにな
 ったもの。

品種の違いについては、吉岡博
 士は吉備考古館で発見した種のう
 ち完全な原形を焼している二十個
 は大きさが中国種と異なり、モモ
 の種、奈良女子大名誉教授小
 清水卓二氏によると、中国品種
 は形が大体丸形だが、こんどの
 種は丸型、型などがあり、標本
 も異なっているという。

この新説とともに吉岡博士は種
 には穴のあいたのが四個あり、吹
 けはキジのメスの鳴き声に似てい
 るところから産地人が「モモ笛」
 をつくり、キジを集めて射とめて
 いたことが推測されるとしてい
 る。また岡山は近年モモの産地と
 して知られているが、大昔からモ
 モが各地にあったといっている。
 これは考古館の種がみつかったこ
 とや、今でも井原市の民家に通説
 ・岩野モモ、といわれる野性モモ
 が残っていることでもわかり、ま
 た笛はキジの野鶯に使っていたと
 思われるが、この点でも民族学的
 に岡山の桃太郎はなしと約はれて
 いたもの。

吉備の「桃太郎」→日本遺産の根拠

- 桃核祭祀 道教祭祀、神道に発展
- 特殊器台 箸墓など大和に伝播、埴輪の元祖
- 弧帯文 龍王信仰 「直弧文」に発展解消

この三点は卑弥呼の鬼道の構成要素

★手焙り型土器、家型埴輪、木棺木槨墓、貼り石

- 桃太郎・温羅伝説(吉備津神社縁起)
- 百襲姫(臺與)↔桃太郎(吉備津彦)孝霊天皇
- 臺與 = やまとととびももそひめ

倭迹々日百襲姫命

「大和に入った桃の祭祀を世襲した姫」

上東遺跡波止場の桃核出土

- 上東遺跡 9608個 弥生後期 波止場状遺構
- 纏向遺跡 2765個 弥生後期 土壙
- 鳥取高住牛輪谷遺跡 2600個、弥生後期
- 津島遺跡 2415個 弥生後期 河道
- 布留遺跡 1546個 流路
- 百間川沢田遺跡 460個 古墳前期 井戸
- 百間川米田遺跡 400個 弥生後期～井戸土壙
- 百間川今谷遺跡 384個 弥生後期 溝・水田

神功皇后・応神天皇・住吉大社

- 神功皇后は幼い応神を連れて、大和の忍熊皇子たちの軍勢を破って、政権を立てたとす
- **小林恵子**は380年に苻堅に反乱を起こした、幽州(北京周辺)刺史の**苻洛**が西海に流されたあと、インド・百済から九州に上陸し、神功と組んで大和を制圧したとする
- だが383年の淝水の戦い後、再び自立した慕容垂が後燕を建て、北中国が大混乱中に、シルクロードの草原の道をたどったと考えたほうがいい

牛窓湾を囲む吉備海部直の古墳

鹿歩山古墳

84m 5C後半



波歌山古墳・消滅

60m 5C後半



天神山古墳

85m 4C後半



雄略天皇 463年
吉備海部直赤尾

二塚山古墳

55m 6C中

バス停あり



黒島1号古墳

81m 5C中

仁徳天皇

黒媛



オリーブ園から見下ろした黒島古墳





牛
転
の
話

うしまろび

はなし

文・窪田聡
絵・廣畑一男

牛窓の語源、牛転び

- 塵輪鬼(ちんりんき)という頭が八つの怪物が王(仲哀天皇)の矢にあたり首が黄島(鬼島)、胴が前島(塵輪島)、尾が青島(尾島)になった
- 住吉明神が牛鬼を転ばし、からだは黒島(骸島むくろしま)、内臓が百尋岨(ももひろそわえ)になり、首が波歌山古墳(はかやまこふん)に埋められた
- 牛転び(うしころび)から、うしまろび～牛窓に地名が変化したらしいです
- 唐子踊りの歌の歌詞は言語不明
もしかして苻洛の持ってきた言語かも

唐子踊りの歌は何語か

瀬戸内市牛窓町紺浦(こんのうら)に伝わる舞楽風の踊り。10月第4日曜日(もと24日)の疫神社の秋祭に、青年たちの唐歌にあわせて、唐装束の7、8歳の童子たちにより踊られる。

神功皇后が三韓遠征からの帰りに、この地に立ち寄ったおりに舞をまわして旅情を慰めたことに始まると伝えている。おそらく牛窓港が古くから栄えた開かれた良港であったため、韓国から伝承し、稚児舞楽化したものかもしれない。唐歌は「サーチャーア ワーンエー ハアーエーヤンヤワ……」といった意味不明のもの。囃子は小太鼓に笛。踊りは約10分間ほどのものであるが、童子2人によるゆったりしたテンポの異国風の美しい踊りである。綾浦の太刀踊とともに国の選択無形民俗文化財に指定される。

日本語・韓国語・中国語ではない言語、北方遊牧民族の言語の可能性。唐子とは韓子、つまり日本人と韓国人の混血という意味で、雄略紀の蘇我韓子宿禰などあり。牛窓は吉備海部の最有力根拠地



牛窓・疫神社



苻洛は座っても牛の奔るを制す

- 前秦の征北將軍、幽州刺史の行唐公の苻洛は、勇にして而して多力、能く坐して牛の奔るを制し、射て犁耳(鋤の耳は分厚い)を洞(つらぬ)く
- 自ら代を滅ぼす之功有るを以て、開府儀同三司を求め、得ず、是に由りて怨み憤る。
- 三月、秦王の堅は洛を以て使持節、都督益、寧、西南夷諸軍事、征南大將軍、益州牧と為し、伊闕より襄陽に趨き、漢水を溯りて而して上ら使む。
- 使者を分遣し兵を鮮卑、烏桓、高句麗、百濟、新羅、休忍の諸國に徴し、兵三萬を遣わして北海公の重を助けて薊(北京)を戍らしむ。

苻洛は西海郡(河西回廊)に一族流罪

- 夏, 四月, 苻洛は衆七萬を帥いて和龍を發す。
- 堅は怒り, 左將軍の武都の竇沖及び呂光を遣わして歩騎四萬を帥いて之を討たしむ
- 北海公の苻重は薊城之衆を悉くして苻洛と會し, 中山に屯し, 衆は十萬有り。
- 五月, 竇沖等は苻洛と中山に於いて戦い, 苻洛の兵は大いに敗れ, 苻洛を生きて擒とし長安に送る。
- 苻重は走りて薊に還り, 呂光は追いて之を斬る
- 屯騎校尉の石越は東萊より騎一萬を帥いて, 海に浮かびて和龍を襲い, 平規を斬り, 幽州は悉く平らぐ。堅は洛を赦して誅さず, 涼州之西海郡に徙す。

西海に流罪

百濟經由倭国へ

380年苻洛の乱



前秦

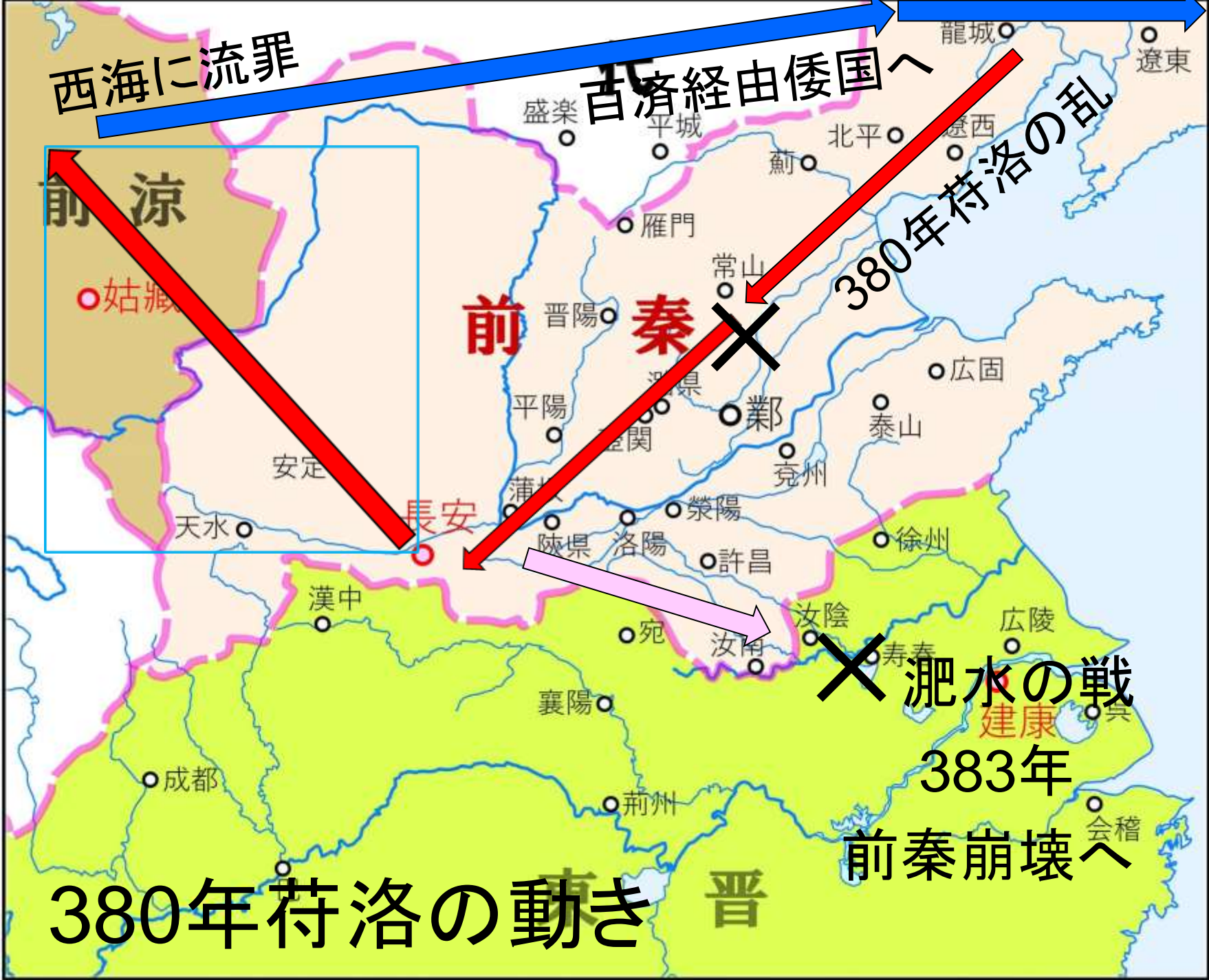
長安

淝水の戦

383年

前秦崩壊へ

380年苻洛の動き



苻堅と新羅王・樓寒の会話

- 382年、再び前秦の下に新羅単独で遣使を行う。
- 《秦書》曰く、苻堅の建元十八年、新羅國王の樓寒は遣使し衛頭をして美女を獻ぜしむ。國は百濟の東に在り、其の人は多く美發あり、發は長は丈餘なり。
- 又曰く、苻堅の時、新羅國王の樓寒は遣使して衛頭をして朝貢せしむ。堅は曰く、「卿は海東之事を言う、古と同じからず、何ぞ也？」答えて曰く、「亦た猶ほ中國のごとし、時代は變革し、名號は改易す。」(太平御覽)
- 新羅の支配勢力が代ったことが分かる。新羅の古墳の金冠やシルクロード経由の様々なガラス玉などの工芸品は、百濟・高句麗とは異質

古事記・仁徳天皇と黒媛伝説

其の太后、石之日賣の命は、嫉妬甚多し。故に天皇の使える妾は、宮の中を臨むことを得ず。言立つれば、足母阿賀迦邇嫉妬しき。爾くして天皇、**吉備の海部の直の女**、名は**黒日賣**、其の容姿端正しと聞こし看して、喚し上げて使いき。然れども其の太后の嫉むを畏みて、本の国に逃げ下りき。天皇、高き臺に坐しまして、其の黒日賣の船の出でて海に浮ぶを望み瞻て、以ちて歌いて曰く、

淤岐幣邇波 袁夫泥都羅羅玖 久漏邪夜能 摩佐豆古和藝毛 玖邇幣玖陀良須

故、太后、是の御歌を聞きて大きに忿りて、人を大浦に遣し追い下して歩より追い去りき。ここに天皇、其の黒日賣を戀いて、太后を欺きて曰く、「淡道嶋を見んと欲う。」といいて、幸行しし時に**淡道の嶋**に坐しまして遙かに望みて歌いて曰く、

淤志豆流夜 那爾波能佐岐用 伊傳多知豆 和賀久邇美禮婆 阿波志摩 淤能碁呂志摩 阿遲摩佐能 志麻母美由 佐氣都志摩美由

乃ち其の嶋より傳いて吉備の国に幸行しき。爾くして黒日賣、**其の国の山方の地**に大坐さしめて大御飯獻りき。ここに大御羹を煮んと爲て其の地の菘菜を採る時に、天皇、其の嬢子の菘採る處に到り坐して歌いて曰く、

夜麻賀多邇 麻祁流阿袁那母 岐備比登登 等母邇斯都米婆 多怒斯久母阿流迦

天皇、上り幸す時に、黒日賣、御歌を獻りて曰く、

夜麻登幣邇 爾斯布岐阿宜豆 玖毛婆那禮 曾岐袁理登母 和禮和須禮米夜

また歌いて曰く、

夜麻登幣邇 由玖波多賀都麻 許母理豆能 志多用波閑都都 由久波多賀都麻

雄略天皇・吉備海部直赤尾

田狭は任所に行った。天皇が婦を幸せたのを聞いて、助けを求めて新羅に入ろうと思った。そのとき、新羅は中国に仕えてなかった。天皇は田狭臣の子の弟君と吉備海部直赤尾に詔して言った。

「お前、行って新羅を罰を与えよ」

西漢才伎歡因知利は側にた。すぐに進んで天皇に申し上げた。

「わたしめよりも巧みな人が多く韓国にいます。呼び寄せて仕えさせるべきです」

天皇は群臣に詔していった。

「そうならば、歡因知利をもって、弟君に添えて、道を百済に舵を取って、併せて勅書を与えて、巧の者を献上させろ」

弟君は命令を承って、衆を率いて行って、百済に到着して、その国に入った。国神は老女に化けて、路で会った。弟君はこれから行く国が遠いか近いか尋ねた。老女は答えた。

「また1日行くと、到着するでしょう」

弟君は自然と路が遠いと思って、新羅を征伐しないで帰った。百済が献上した今来の才伎を大嶋の中に集めて、候風ことになって、長く留まることになって月が経った。

大海媛と紀小弓宿禰

紀小弓宿禰は大伴室屋大連に天皇のことで憂いて陳情した。

「わたしはめは拙弱といっても慎んで勅を承りました。ただ今は、わたしめの婦が死ぬ間際なのです。わたしを世話することができる者はいません。公、願わくば、このことを詳細に天皇に申し上げてほしい」

大伴室屋大連は、詳細に申し上げ、天皇はそれを聞いて悲しみ嘆いて、吉備上道采女大海を紀小弓宿禰に与え、従えて身の回りの世話をさせた。推轂して派遣しました。そうして紀小弓宿禰たちは新羅に入った。そのいく先々で郡を屠った。

新羅の王は夜、官軍の四面に鼓声を聞いて、の土地をすべて得たとわかり、数百の騎馬兵と混乱して逃げ大敗した。(中略)

采女大海は小弓宿禰の喪のために日本に参った。大伴室屋大連に憂いを口にした。

「わたしは葬るところが分かりません。願わくば、良き土地をください」

大連はすぐに天皇に申し上げた。天皇は大連に勅して言った。

「大將軍の紀小弓宿禰は竜のように上がり、虎のように見て、八維を眺め見た。背くものを追い討って、四海と折衝した。そうしてその身を万里も遠い土地に置いて労って、命を三韓で墮とした。哀矜から、視葬者をあてよう。また、お前、大伴卿と紀卿は国の近い隣の人であるから、由来は同じだろう」

大連は勅を承り、土師連小鳥に冢墓を田身輪邑に作らせて、葬った。それで大海は喜び、自然と黙っていられなくなり、韓奴室・兄麻呂・弟麻呂・御倉・小倉・針六口を大連に送った。吉備上道の蚊嶋田邑の家人部はこれだ。